

令和 元年 6 月 24 日現在

機関番号：11302

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K17263

研究課題名（和文）保育者と小学校教諭における道徳指導観の相違：違反行為に対する言葉かけの比較から

研究課題名（英文）Study on teachers' views of moral education: Comparative analysis of nursery and kindergarten teachers and elementary school teachers

研究代表者

越中 康治 (ETCHU, Koji)

宮城教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：70452604

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、違反行為に対する言葉かけの比較などを通じて、保育者（保育士及び幼稚園教諭）と小学校教諭における道徳指導観の相違について検討を行うことであった。この目的のために、保育者と教師、さらには比較対象として大学生を対象として、一連の質問紙調査を実施した。架空の子ども同士のトラブル場面において、子どもたちにどのように言葉かけを行うか自由記述を求め、テキストマイニングの手法を用いて分析するなどした結果から、それぞれに特徴的な表現が見出された。また、テキストデータの収集・分析以外にも数値データの収集・分析を行い、保育者と教師における道徳指導観の相違を見出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

保幼小の連携・円滑な接続が課題となっており、連携・接続は進まない状況にあるとも指摘される。連携・接続を阻害する要因のひとつとして考えられるのが、保育者と小学校教諭との間にある価値観（発達観・指導観）の相違である。本研究では、違反行為に対する言葉かけの比較などを通じて、保育者（保育士及び幼稚園教諭）と小学校教諭における道徳指導観の相違を明らかにしたが、こうした知見は、保幼小の相互理解の一助になるのではないかと考える。

研究成果の概要（英文）：The purpose of the present study was to clarify the characteristics of teachers' views of moral education. For this purpose, several questionnaire surveys were conducted among nursery and kindergarten teachers and elementary school teachers. For example, teachers were requested to freely describe the verbal support they used in situations of trouble among children, and an analysis was conducted using text mining. Results revealed that nursery and kindergarten teachers and elementary school teachers all have their own characteristic expressions.

研究分野：発達心理学

キーワード：道徳性 発達観 指導観 保育士 幼稚園教諭 小学校教諭 言葉かけ 保幼小連携

1. 研究開始当初の背景

本研究は、違反行為に対する言葉かけの比較などを通じて、保育者(保育士及び幼稚園教諭)と小学校教諭における道徳指導観の相違について検討を行うことを主たる目的とした。

保育者(保育士・幼稚園教諭)と小学校教諭の発達観・指導観の相違については、これまでも様々な研究から指摘がなされてきた。例えば、山崎他(2005)は、幼稚園教諭と小学校教諭のそれぞれに、幼稚園と小学校の教育において育てるべき内容を尋ね、認識の違いを検討した。その結果、幼稚園教育において育てるべき内容では、幼稚園教諭が「感動・豊かな心」などの情緒的・感情的側面を重視するのに対して、小学校教諭は基本的生活習慣やルール・規則の順守などを重視する傾向にあった。他方、小学校教育において育てるべき内容では、幼稚園教諭が「個性・自分らしさ」を重視するのに対して、小学校教諭はこの点をあまり重視しないという違いが見られた。また、中川他(2009)は、保育士・幼稚園教諭と小学校教諭の学級経営観を比較検討し、前者が心情重視で受容的であるのに対して、後者が規範重視で指導的であることを指摘した。さらに、野口他(2007)は、「子ども中心」や「教師中心」などの語に対するイメージの比較から、幼稚園教諭が子どもの主体性や自発性を重視するのに対し、小学校教諭は教師側の指導や方向付けを重視するなど異なる観点を持っていることを指摘した。

そして、こうした発達観・指導観の相違は、子どもに対する言葉かけの相違にも表れることが示唆されている。例えば、池田他(2015)は、小学校1年生の生活科の授業にT2として参加した幼稚園教諭とその授業を参観した幼稚園教諭を対象として質問紙調査を実施し、幼小の共通点と差異点を探っている。その結果、言葉かけに関して、小学校教諭がねらいに向かって意識づける傾向にあるのに対して、幼稚園教諭はねらいにそぐわない子どもの気づきもすべて認め、丁寧に聞くという特徴が見られた。また、小学校教諭では子どもが見つけたものの状況を子どもが把握し、物事を比較して考えることができるような言葉かけが多いのに対し、幼稚園教諭では共感や情感に訴えるような言葉かけが多かった。

これまでの「言葉かけ」(または「言葉がけ」)に関する研究は、造形活動やごっこ遊びなど、それぞれの分野のもとで議論されることが多く、「言葉かけ研究」の枠組みに関する共通理解はほとんど得られていない(若山他, 2011)とも指摘されていた。言葉かけとは何かを定義することは難しいが、「保育・教育の現場では、子どもの活動にしばしば大人から言葉が投げかけられる」(若林他, 2012, p.852)ものである。こうした言葉かけをとらえた従来の研究は、実践者の言葉かけをカテゴリ化し、その特徴を客観的に示す静的な研究と、実践者の思いや思考などの背景に着目し、言葉を紡ぎ出す様子を描く動的な研究とに大別されるが、特に後者の研究の蓄積は不十分であるとの指摘もなされている(田中他, 2013)。さらに、若林他(2012)は、保育者の言葉かけが保育者の信念や保育観に基づいて生まれるものであることを示唆している。こうした言葉かけについて、保育者と小学校教諭との比較から検討を行い、その背景にある信念・価値観(発達観・指導観)との関連を検討することも重要であると考えられる。

言葉かけの問題と関連して、道徳発達観や道徳指導観に関しても、保育者と小学校教諭との間で認識の相違があることが想定される。例えば、越中他(2011)は、道徳指導観に焦点を当てて、現職の保育者・教員及び養成課程の学生を対象として、「道徳性や規範意識の芽生えを培う上で幼児期にどのような指導・配慮が必要か」と尋ね、テキストマイニングによる分析を行っている。その結果、小学校教諭では「きちんと」「しっかり」「～させる」などの語が特徴的であった。「幼児期からルールやきまりをきちんと守らせる、しっかり意識させる」など、教育の目標や指導内容を重視した記述が特徴的であった。他方、保育者では、「見る」「聞く」「思い」「気持ち」「理解」などの語が特徴的であった。「子どもの様子を見て、話を聞き、思いや気持ちを理解する」など、子どもに寄り添うことを重視した記述が特徴的であった。また、養成課程の学生に関して、保育者志望の短大生・大学生では「見守りつつ、教えてあげ、ほめてあげる」などの記述が、小学校教諭志望の大学生では「悪いと教える、叱る、注意する」などの記述が特徴的であった。学生は現職者に比して賞罰による直接教示を志向する傾向にあるが、幼保と小の相違の萌芽は養成課程の段階から認められる可能性が示唆されている。

これらの結果からも、保育者と小学校教諭の間には道徳発達や道徳指導に関して認識の相違があり、さらにはそれらが実践経験と相まって保育・教育場面での具体的な言葉かけの相違をもたらすことが予想される。そこで本研究では、子ども同士のトラブルに対する保育者と小学校教諭の言葉かけに焦点を当てて、両者の相違について探索的に検討を行うこととした。

2. 研究の目的

上記の通り、保育者と小学校教諭の間には道徳発達や道徳指導に関して認識の相違があり、さらにはそれらが実践経験と相まって保育・教育場面での具体的な言葉かけの相違をもたらすことが予想される。そこで本研究では、子ども同士のトラブルに対する保育者と小学校教諭の言葉かけに焦点を当てて、テキストデータの分析から両者の相違について探索的に検討を行うこととした。

3. 研究の方法

上述の通り、本研究では、子ども同士のトラブルに対する保育者と小学校教諭の言葉かけに焦点を当てて、両者の相違について探索的に検討を行うことを当初の主たる目的とした。この目的のために、保育者と小学校教諭を若手と熟練に分けた上で、比較対象として大学生も対象として質問紙調査を実施し、職種と実践経験による相違を探った。調査の方法としては、架空の子ども同士のトラブル場面において、子どもたちにどのように言葉かけを行うか、具体的なセリフを自由記述するよう求めた。なお、「言葉かけ」の語は様々な研究において多義的に使用されており、統一的な定義はなされていないと考えられる。そこで本研究では、この具体的なセリフを「言葉かけ」であると操作的に定義した。そして、この「言葉かけ」の自由記述データをテキストマイニングの手法を用いて分析した。

また、当初の計画ではテキストデータの収集・分析を中心に研究を進めていく予定であったが、初年度の取り組みの中で、テキストデータにとどまらず数量的なデータも収集することが重要であると考えられたため、両側面からデータの収集・分析を行うこととした。

4. 研究成果

架空の子ども同士のトラブル場面において、子どもたちにどのように言葉かけを行うか自由記述を求め、テキストマイニングの手法を用いて分析した結果から、全体としては、「どうして叩いたの」などと理由を問うた上で、「だめ」「いけない」などと叩くことを否定する言葉かけが多いことが確認された。他方、全体的には上記のような傾向が示されたものの、保育者、小学校教諭と大学生のそれぞれで特徴的な表現も認められることが確認された。

第1に、学生においては、現職者に比して、「叩いてはいけない」「順番に遊びなさい」「仲良く使いなさい」などの直接的に行動を命令する言葉かけが多く見られたことが特徴的であった。また、学生においては、「だめ」「いけない」などの否定な表現も相対的に多く見られた。先述の通り、道徳発達観・指導観に関する調査などから、学生は現職者に比して賞罰による直接教示を志向する傾向にあることが指摘されている（越中他，2011）が、こうした特徴は言葉かけのあり方にも表れているものと解釈できる。

第2に、現職者においては、「どうしたかったの?」「どうしたらいい?」など、子どもの側に考えや思いを問うような言葉かけが多いこと特徴的であった。「どうして叩いたの」「なぜ叩いたの」などと叩いた理由を問い詰めるような言葉かけは学生においても多く見られたが、現職者においては、また違った問いかけも多くなされていることが示された。現職者の言葉かけには、子どもが自分で自分の行動を落ち着いて見つめ直したり、あるいはこれからどうするかを子どもが自己決定できるよう促したりといった配慮が含まれているものと解釈できる。

第3に、特に保育者においては、先に叩かれた子どもに対する言葉かけとして、「叩かれて痛かったね」「叩かれたことが嫌だったよね」などの表現が認められたことが特徴的であった。叩かれたことによる怒りや悲しい気持ちを受け止め、寄り添うような言葉かけは、学生や小学校教諭では保育者ほどには認められなかった。先述の小学校の授業場面での研究（池田他，2015）からも、幼稚園教諭は、小学校教諭に比して、認めたり共感したりする言葉かけが多いことが指摘されているが、このことはトラブル場面の言葉かけにおいても同様と解釈できる。心情重視で受容的な学級経営観（中川他，2009）や子どもに寄り添うことを重視した道徳発達観・指導観（越中他，2011）がこうした言葉かけの特徴にも表れているものと考えられる。

上記の調査以外にも、本研究では、保育者と小学校教員における道徳指導観の相違について、数値データの分析から検証を行った。例えば、保育者と小学校教諭を対象に質問紙調査を行い、権威主義的伝統主義尺度への回答を求めるとともに、幼児期の道徳発達に関するイメージの各項目について幼稚園や保育所（園）の年長児（5歳児）にどの程度あてはまると思うかを尋ねた。その結果、保育者は小学校教諭に比して、年長児は自分のことは自分ですることができ、自分の気持ちを抑えて我慢することができるというイメージしていた。他方、小学校教諭は保育者に比して、年長児ではやって良いことと悪いことの区別は難しく、大人が正しいと言えば何でも正しいと判断するとイメージしていた。また、権威主義的伝統主義傾向の強い保育者・教師ほど、年長児はやって良いことと悪いことの区別は難しいとイメージする傾向にあった。

また、別の調査では、保育者と教員の道徳教育に対する考え方と権威主義的伝統主義及びDark Triadとの関連について、性差及び属性による違いを含めて探索的に検討を行った。その結果、権威主義的伝統主義傾向の強い現職者ほど、道徳教育において価値や美徳を伝えることを重視し、道徳的な成熟は美徳を身につけることであると認識する傾向にあること、Dark Triad傾向（中でもマキャベリアニズムとサイコパシー傾向）の強い現職者ほど、人間の本性は悪であり、抑制されなければならないと認識する傾向にあること、現職者の道徳教育観においては、性差に加えて属性（保育者・教員）による違いも見出され、教員においては女性に比して男性が、人間の本性は悪であり、道徳は社会によって異なると認識する傾向にある一方で、保育者に比して特に男性教員は、教育の目的を集団のためと認識する傾向にあることなどが見出された。

一連の研究から、保育者（保育士及び幼稚園教諭）と小学校教諭における道徳指導観の相違が確認されるとともに、より詳細な検討の必要性が示唆された。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計9件)

- 越中 康治・目久田 純一 (2018). 道徳教育観と権威主義的伝統主義及びDark Triadとの関連 (2) 保育者と教員を対象とした比較検討 宮城教育大学紀要, 53, 287-295. (査読無)
- 越中 康治 (2018). 道徳教育観と権威主義的伝統主義及びDark Triadとの関連 (1) 教育学部生を対象とした予備的検討 宮城教育大学紀要, 53, 279-286. (査読無)
- 越中 康治・目久田 純一 (2017). 道徳教育均質化志向尺度作成の試み 宮城教育大学紀要, 52, 261-264. (査読無)
- 越中 康治・目久田 純一 (2017). 子ども同士のトラブルに対する保育者と小学校教諭の言葉かけ テキストマイニングの手法を用いた比較検討 幼年教育研究年報, 39, 33-41. (査読有)
- 越中 康治 (2017). 道徳性の芽生えを培う上で親は何に配慮すべきか? 高校生及び大学生と子育て経験者の記述の差異 宮城教育大学情報処理センター研究紀要: COMMUE, 24, 53-58. (査読無)
- 越中 康治・目久田 純一 (2016). 道徳の教科化に対する教師・保育者及び学生の認識 (2) テキストマイニングを用いた分析 宮城教育大学紀要, 51, 167-176. (査読無)
- 越中 康治 (2016). 道徳の教科化に対する教師・保育者及び学生の認識 (1) 宮城教育大学紀要, 51, 159-165. (査読無)
- 越中 康治 (2016). 保育者における道徳発達に関する認識と学級経営観の変化 教頭・主任教員は自身の変化をどのように認識しているか 宮城教育大学情報処理センター研究紀要: COMMUE, 23, 37-40. (査読無)
- 越中 康治 (2016). 幼児期の道徳発達に関する保育者と小学校教諭の認識 宮城教育大学情報処理センター研究紀要: COMMUE, 23, 33-36. (査読無)

[学会発表](計6件)

- 目久田 純一・越中 康治 (2018). 道徳教育均質化志向と権威主義及び道徳の教科化への態度との関連 (2) 権威主義と道徳の教科化への態度の関係性に及ぼす道徳教育均質化志向の媒介効果 日本パーソナリティ心理学会第27回大会発表論文集, 141.
- 越中 康治・目久田 純一 (2018). 道徳教育均質化志向と権威主義及び道徳の教科化への態度との関連 (1) 小・中学校教員と教育学部生を対象とした比較検討 日本パーソナリティ心理学会第27回大会発表論文集, 140.
- 越中 康治・上田 敏丈・若林 紀乃・濱田 祥子・岡花 祈一郎・中西 さやか・廣瀬 真喜子・松井 剛太・八島 美菜子・山崎 晃 (2017). 就学移行期における障害のある子どもに関する記録物の作成・活用状況と課題 (2) テキストマイニングによる自由記述の分析から 日本教育心理学会第59回総会発表論文集, 578.
- 越中 康治・目久田 純一 (2017). 道徳教育均質化志向尺度作成の試み (2) 日本発達心理学会第28回大会論文集, 648.
- 目久田 純一・越中 康治 (2017). 道徳教育均質化志向尺度作成の試み (1) 日本発達心理学会第28回大会論文集, 647.
- 越中 康治 (2016). 道徳教育観と権威主義的伝統主義及びダークトライアドとの関連 教育学部生を対象とした予備的検討 日本パーソナリティ心理学会第25回大会発表論文集, 113.

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名: 越中 康治
ローマ字氏名: ETCHU Koji
所属研究機関名: 宮城教育大学
部局名: 教育学部
職名: 准教授
研究者番号 (8桁): 70452604

(2)研究協力者

松井 剛太 (MATSUI Gota)
岡花 祈一郎 (OKAHANA Kiichiro)
中西 さやか (NAKANISHI Sayaka)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。